

2020年度中間期（2020年9月期） 決算の概要

数字は原則として単体ベース、単位未満切捨て



福島銀行は、今後もコロナ禍で苦しむ地元企業に寄り添い、リスクを取って積極的に貸出金の供給に努めるとともに、SBIグループとの連携を強化し、事業者の方々の生産性向上や、個人の皆さまの資産形成に繋がる商品・サービスの提供に努めてまいります。

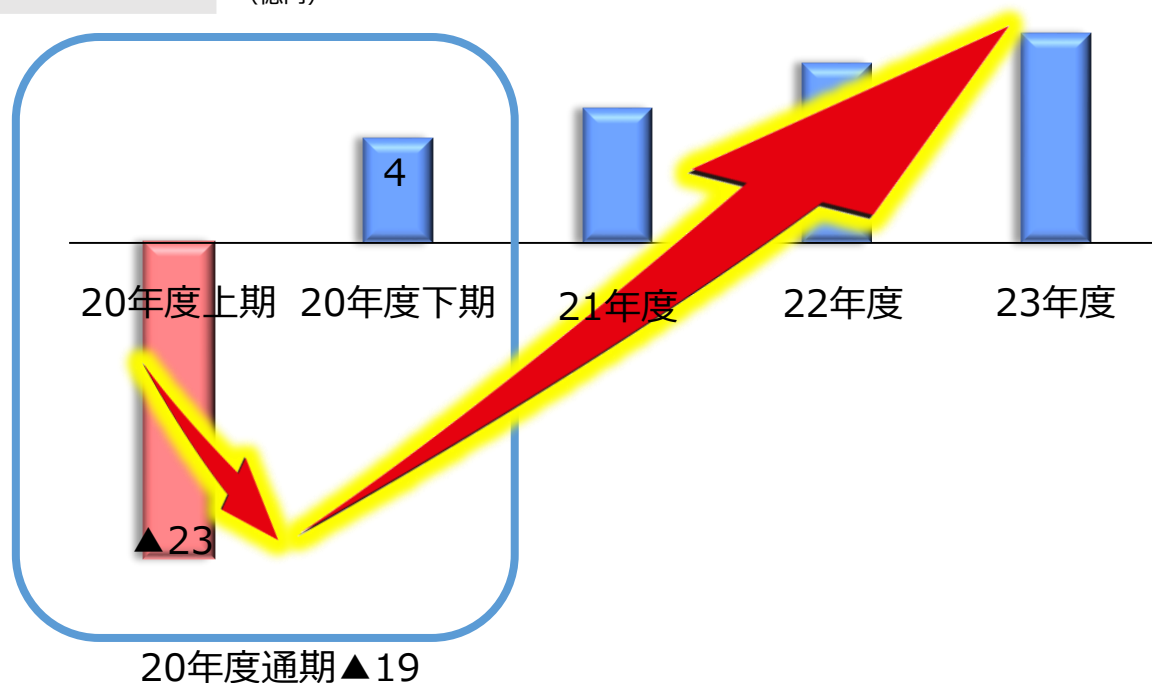
1. 2020年9月期決算トピックス	P. 1
ふくぎんV字回復プランの概要 《 2020年8月11日公表 》	P. 2
2020年9月期決算トピックス 《 本業収益の黒字化 》	P. 3
〃 《 有価証券運用の大幅な見直し 》	P. 4
〃 《 預 金 》	P. 5
〃 《 貸 出 》	P. 6
2. SBIグループとの連携	P. 7
SBIグループとの連携 ①、②	P. 8
3. 新しい店舗運営について	P. 10
地域特化店の創設 ①、② 《 お客さまへの訪問活動の積極化 》	P. 11
4. 2020年9月期決算の概要	P. 13
2020年9月期の実績	P. 14
預 金（NCDを含む）・預かり資産	P. 15
貸 出	P. 16
有価証券	P. 17
健全性	P. 18
2020年度（2021年3月期）の決算予想	P. 19
5. 2020年度上期の主な取組み ①、②	P. 20
6. 当行のプロフィール	P. 22

1. 2020年9月期決算トピックス

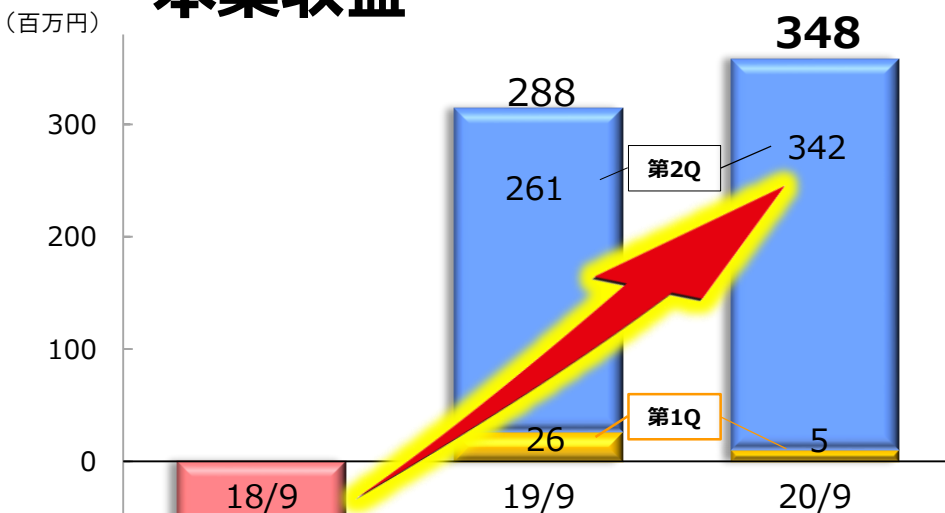
- 今後拡大する可能性のあるリスク要因について前倒しで処理し、前向きな損失を計上
- 2020年9月期 中間純利益▲23億円、2021年3月期 当期純利益▲19億円
- 本業収益は、前年を上回る黒字を見込む（2020年3月期 本業収益7.2億円）
- 有価証券含み損を一掃し、信用コストの備えも充実
- これにより将来に向けて安定的な収益を確保し、業績のV字回復と復配を目指す
- お客様の支援に全力で取り組み、地域経済の活性化・地域創生に貢献する

当期純利益の推移目標

(億円)



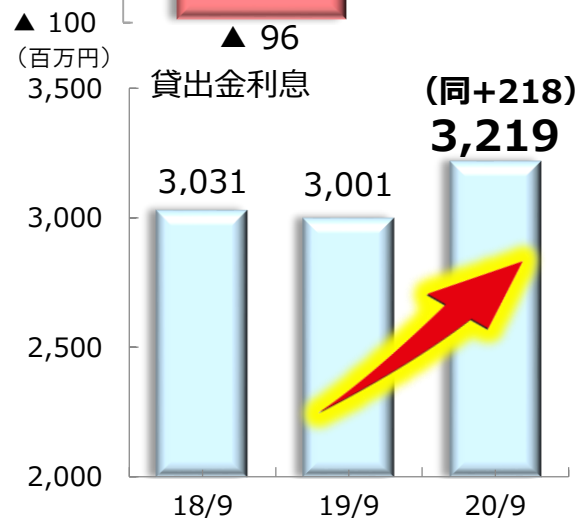
本業収益



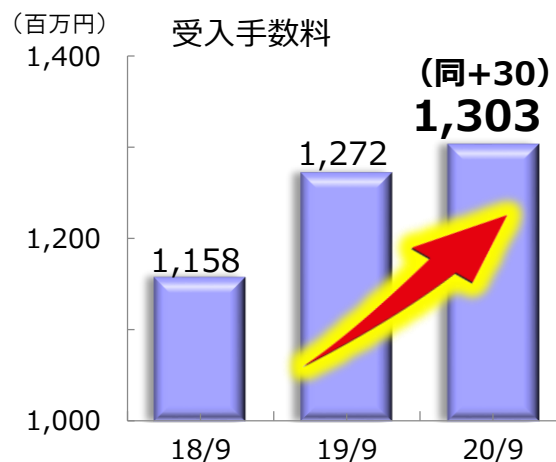
金融機関の本来の収益力をあらわす

本業収益（投信解約益を除くコア業務純益）は、**348百万円（前年同期比+59百万円）**を計上

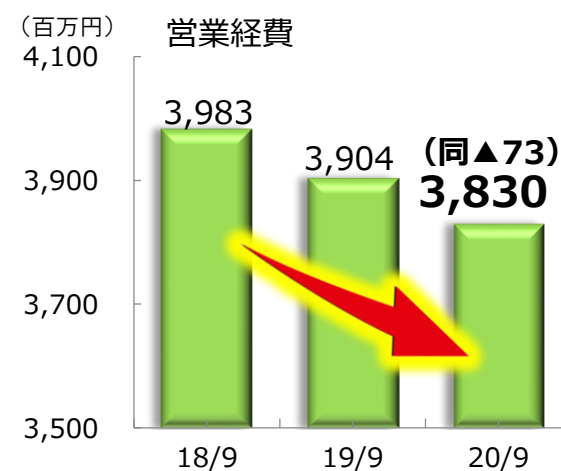
- 貸出金利息は、営業店事業性貸出金の増加を中心に、前年同期比+218百万円増加
- 受入手数料は、同+30百万円増加
- 営業経費は、同▲73百万円減少



- 中間期で貸出金利息が前年同期を上回るのは13年振り



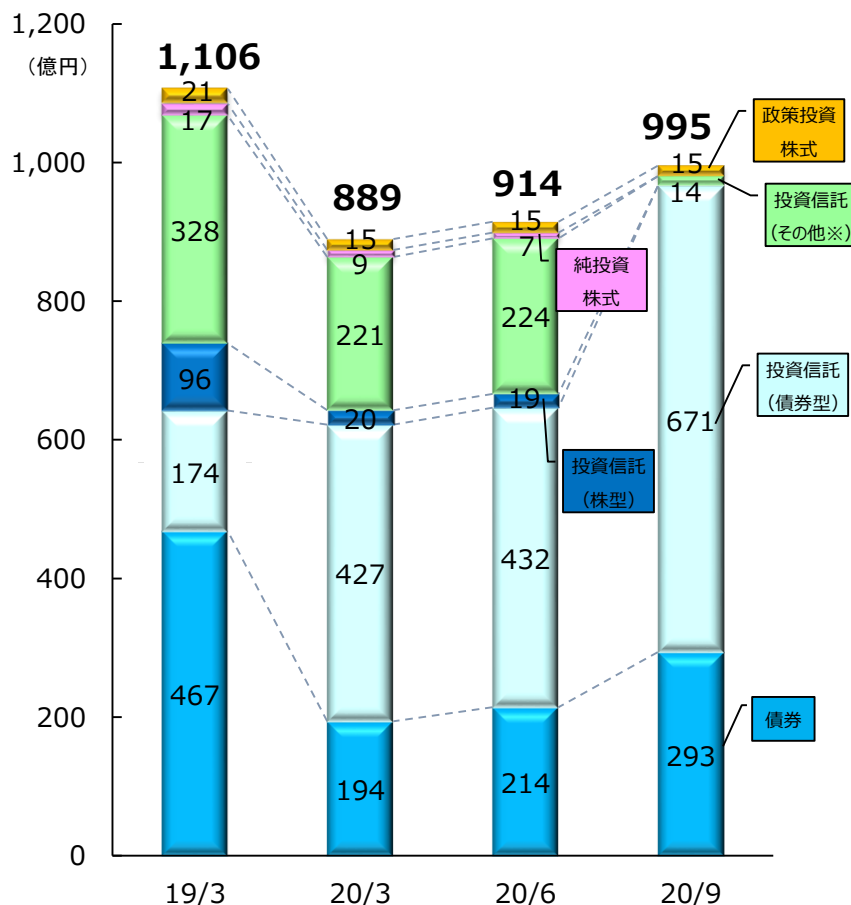
- 法人においては、私募債発行手数料、個人においては、保険販売手数料が進展



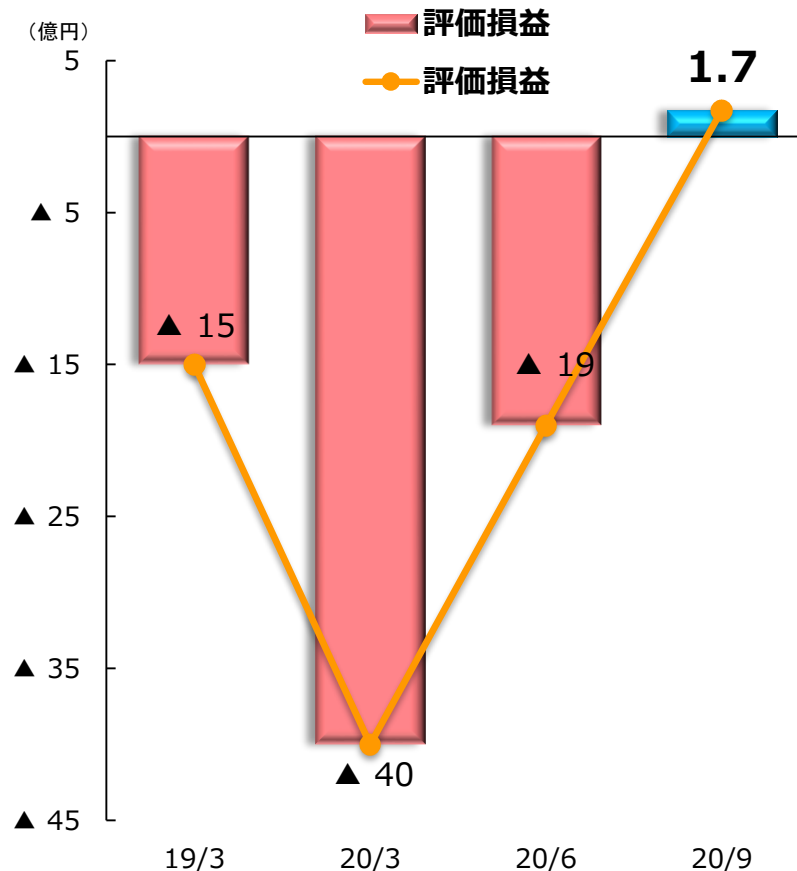
- 物件費を中心に、営業経費全般を削減

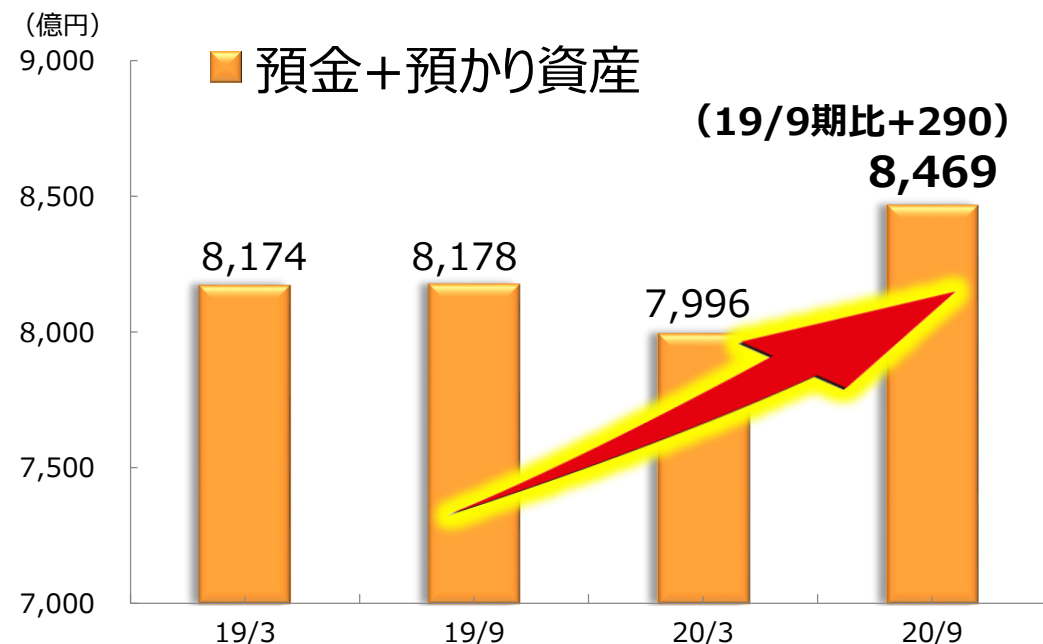
- 有価証券のポートフォリオについて、SBIグループのリソースの活用により、債券中心の運用に変更し安定した収益を目指す
- 株式や投資信託等を売却し、20年3月期に▲40億円あった有価証券評価損を一掃し、20年9月期には+1.7億円の評価益に転換

その他有価証券残高の推移



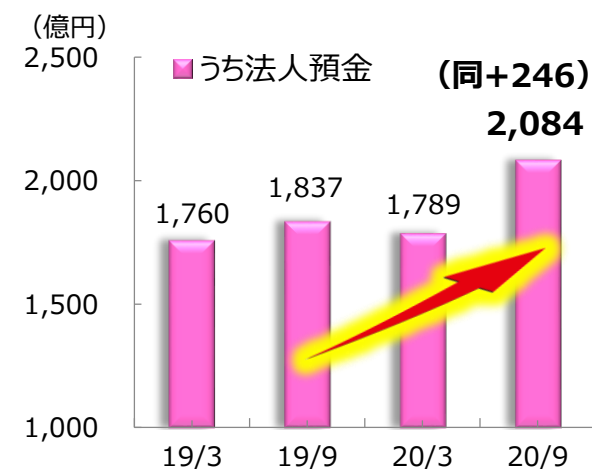
その他有価証券評価損益の推移



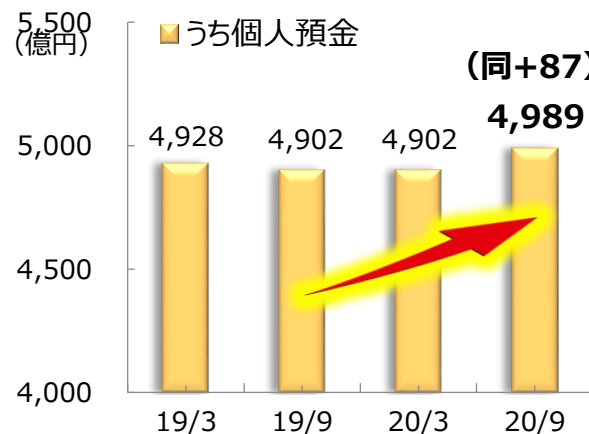


預金+預かり資産の残高は、
8,469億円（前年同期比+290
億円）と過去最高を更新

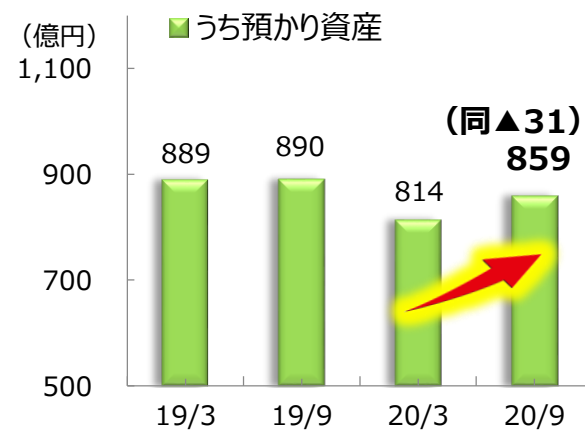
- 法人預金は、前年同期比+246億円増加
- 個人預金は、同+87億円増加



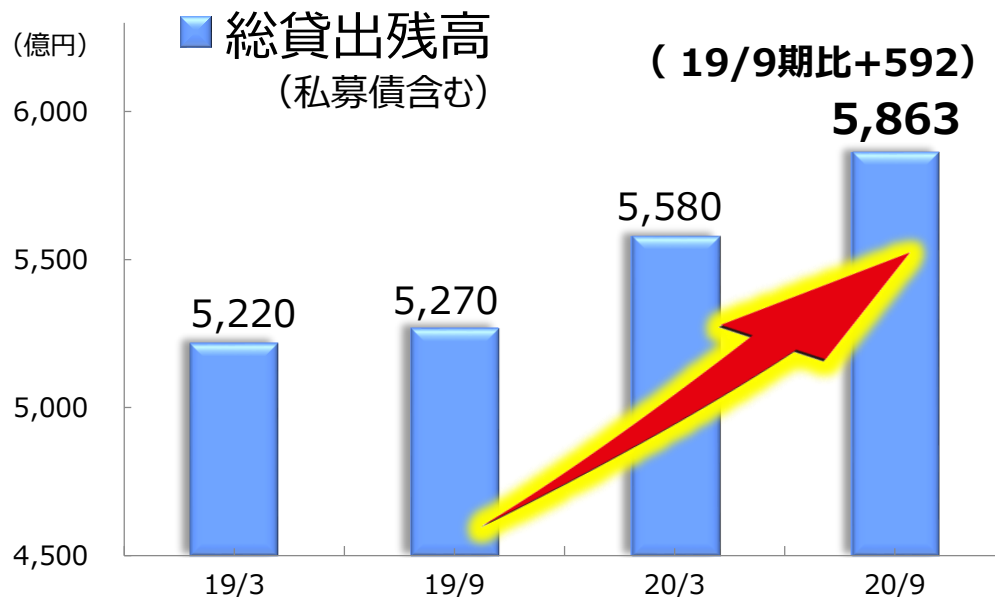
- コロナ禍による先行き不透明感等から手元流動性預金が増加



- 個人消費の低迷やコロナ禍による先行き不安感により増加

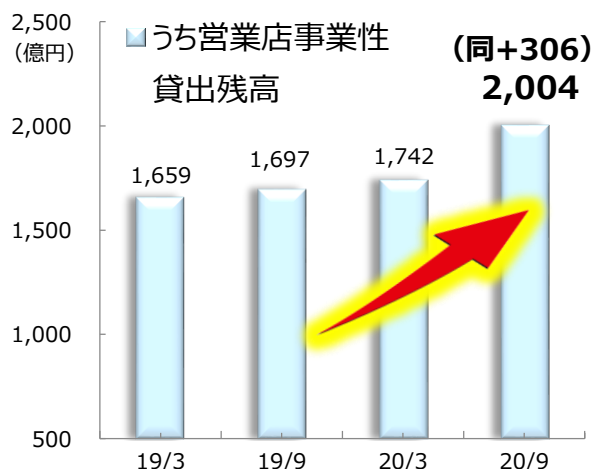


- コロナ禍による投信基準価格の下落や市況の不安定化により投信販売が低調

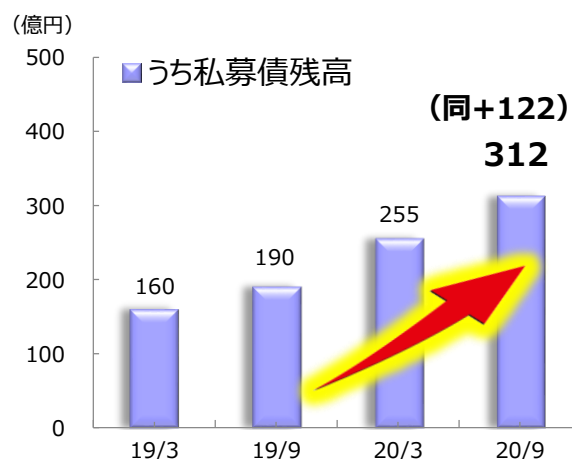


**総貸出残高は、5,863億円
(前年同期比+592億円)と
事業性貸出を中心に大幅に増加**

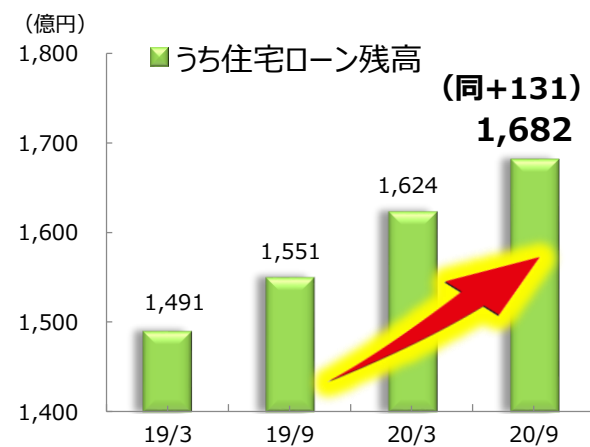
- 営業店事業性貸出残高は、前年同期比+306億円と、コロナ対応融資を中心とした地元中小企業向けの資金繰り支援に積極的に対応



- コロナ対応融資を中心に地元中小企業へ積極的に対応し同+306億円増加



- SDGs危機管理サポート寄付型私募債など私募債受託が同+122億円増加



- ソリューションプラザ、ローンプラザを中心に住宅ローンを推進し同+131億円増加

2. SBIグループとの連携

2019年11月に、SBIホールディングス株式会社と資本業務提携契約を締結。
SBIグループが有する革新的で利便性の高い商品・サービスなどを提供することで、お客さまサービスの向上を図り、地域経済の活性化、福島復興、地方創生に貢献してまいります。

～ 法人のお客さまへのサービス ～ 企業のIT化を支援いたします

クラウド型ワークフローシステム 「承認Time」「経費BankⅡ」の 提供（2020年1月）

IT活用による業務効率化・生産性向上のためのバックオフィス業務を支援。

申請から「承認」「保管」まで意思決定をスピードアップ



～ 個人のお客さまへのサービス ～ お客さまの資産形成をサポートいたします

「福島銀行SBIマネープラザ郡山」 共同店舗の開設（2020年1月）

SBI証券の金融商品・サービスを、対面・ワンストップで提供し、質の高いコンサルティングやアドバイスにより、お客さまの資産形成をサポート。



●「福島銀行バンキングアプリ」の提供（2019年12月）

バンキングアプリによる普通預金の口座開設（来店不要・印鑑不要、通帳レス）や
手軽で網羅的な家計簿アプリ「一生通帳 by Moneytree」を提供



● SBIレミットとの「海外送金サービス」の提供（2020年3月）

地域企業が抱える外国人労働者の方々のために、簡単に利用できる
利便性の高い母国送金サービスを提供



● SBI証券との「リアルタイム入金サービス」の提供（2020年3月）

SBI証券のWEBサイトで、当行普通預金口座からリアルタイムに手数料無料で
証券口座に資金振替でき、スムーズでより便利な証券取引がご利用可能に



● SBI生命と「住宅ローン団信」に関する基本合意の締結（2020年3月）

当行住宅ローン向けに、SBI生命が提供する団体信用生命保険を導入する基本合意を締結
（2021年1月から導入予定）



● アスタミューゼおよびSBIネオファイナンスサービスズとの「理系人材採用支援サービス」の提供（2020年3月）

地域企業が必要とする技術職・研究職などの「理系人材」の雇用促進を図るため
アスタミューゼの人材マッチングサービス『SCOPE』を活用し、専門技術人材の採用を支援



● 住信SBIネット銀行の『ミスター住宅ローンREAL』および『フラット35』の提供（2020年7月）

当行ホームページで、各種手続きがWEBでご利用でき
魅力的な金利水準である住信SBIネット銀行の「住宅ローン」を提供



● SBI損保の「自動車保険」（2020年5月）、「火災保険」の提供（2020年7月）

見積りから申込までWEBで完結し納得の保険料の「自動車保険」や、住信SBIネット銀行の
住宅ローンおよび当行住宅ローンのお客さまに必要な補償を自由に選べる「火災保険」を提供



3. 新しい店舗運営について

～ 「am窓口 pm訪問のお店」 ～

2020年11月16日より、岡部・富田・矢祭支店で新しい店舗運営

背景

人口減少・高齢化の進展
キャッシュレス・デジタル化

コロナ禍

課題と現状

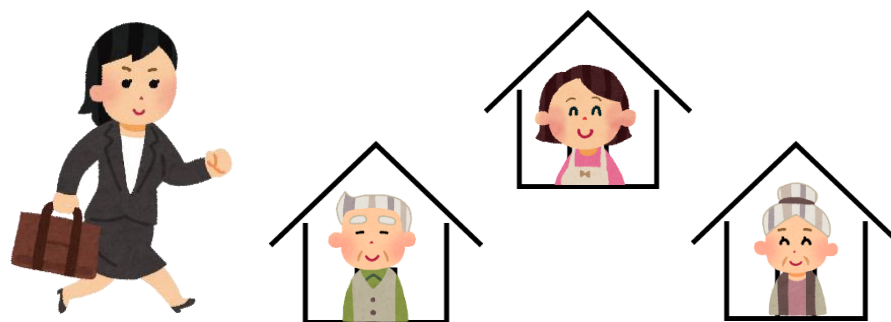
来店客の減少
午前の来店客が多い



地域特化店

毎日営業 …… **顧客利便性**の確保
来店客の減少 …… 積極的な**お客さまへの訪問**
窓口・訪問 …… **同じ行員が対応**することで
相談しやすい体制

少数精鋭の行員配置



～ 「待ちの姿勢から、積極的に訪問する体制へ」 ～

地域の皆さまに より身近な銀行として
これまで以上にお客さまのニーズにお応えします

- 少数精鋭の行員で、**午前中**は「**窓口営業**」を行ったのち、**午後**からは同じ窓口行員が「**お客さま訪問活動**」を行います。
- 同じ行員がご対応することで、お客さまにとって、これまで以上に相談しやすく、スピーディーな対応が可能となります。



※ 対象店舗の営業日は変更ございません

※ 窓口営業時間は5時から3時間へ
2時間の短縮となります

- ・ 休業時間導入店：岡部・矢祭支店
- ・ 富田支店は3時間の短縮

新たな店舗戦略により行員の再配置を進め、法人開拓や預かり資産推進（アドバイザー）など営業に係わる行員を**50名程度増員**し、お客さま訪問を積極的に行います。

4. 2020年 9 月期決算の概要

単 体

(単位:百万円)

	20/9	19/9	前年同期比
経常収益 (①+⑦)	5,767	5,381	385
業務収益①	5,583	5,091	491
貸出金利息	3,219	3,001	218
有価証券利息配当金⑦	1,030	765	264
(A)投信解約益	714	173	541
受入手数料	1,303	1,272	30
国債等債券売却益②④	-	22	▲22
業務費用③	6,755	4,876	1,878
預金利息	85	92	▲6
支払手数料	603	610	▲6
一般貸倒引当金繰入④	300	-	300
国債等債券償還損・償却⑤⑦	1,934	269	1,665
営業経費	3,830	3,904	▲73
人件費	1,807	1,839	▲32
物件費	1,703	1,779	▲76
業務純益⑥ (①-③ (金銭の信託見合費用除く))	▲1,171	214	▲1,386
(B)コア業務純益 {⑥- (②-⑤) +④}	1,062	461	601
本業収益 (投信解約益除くコア業務純益) (B)-(A)	348	288	59
臨時収益⑦	184	290	▲106
株式等売却益①	48	28	19
償却債権取立益	46	55	▲8
貸倒引当金戻入益	-	125	▲125
臨時費用⑧	1,252	231	1,020
個別引当金繰入額	76	-	76
株式等売却損・償却⑧	1,101	126	975
臨時損益⑨ (⑦-⑧)	▲1,068	58	▲1,126
経常利益⑩ (⑥+⑨)	▲2,240	273	▲2,513
特別損益⑪	▲5	▲6	1
法人税等⑫	11	11	0
中間純利益 (⑩+⑪-⑫)	▲2,256	255	▲2,512
不良債権処理費用	376	▲125	502
有価証券関係損益 (⑦+④-⑤+⑧-⑨)	▲1,957	421	▲2,378

20年9月期 損益状況

20年9月期は増収減益。本業収益は黒字化を達成

- 業務収益は5,583百万円。前年同期比+491百万円の増収
 - ・ 貸出金利息は、コロナ対応融資を主因に貸出金平残の増加により同+218百万円の増加
 - ・ 有価証券利息配当金は、有価証券含み損一掃のため投資信託を解約し、同+264百万円の増加
 - ・ 受入手数料は、保険販売や私募債発行手数料の増加から同+30百万円の増加
- 業務費用は6,755百万円と、同+1,878百万円の増加
 - ・ 一般貸倒引当金繰入は、コロナ関係引当金(303百万円)の計上により、同+300百万円の増加
 - ・ 国債等債券償還損・償却は、有価証券含み損一掃のため同+1,665百万円の増加
 - ・ 営業経費は、物件費や人件費などから同▲73百万円の減少
- 業務純益は▲1,171百万円となるも、コア業務純益は1,062百万円、本業収益(投信解約益を除くコア業務純益)は348百万円(同+59百万円)を確保
- 経常利益は▲2,240百万円、中間純利益は▲2,256百万円と赤字を計上
- 赤字要因は、コロナ関係引当金を含めた不良債権処理費用376百万円、および有価証券含み損一掃(株式の減損、ロスカット等)による▲1,957百万円計上

- 預金と預かり資産を合わせた残高は、前年同期比＋290億円増加し8,469億円
・ うち、預金残高は、同＋321億円増加し7,610億円。預かり資産残高は、同▲31億円減少し859億円
- 預かり資産の販売額は、保険が同＋19億円増加したものの、投信は同▲31億円の減少
- 預かり資産の販売手数料は、保険販売などにより同＋0.1億円増加し4.8億円と順調に推移

預金＋預かり資産の残高推移

(億円)

	19/3	19/9	20/3	20/9	20/3期比	前年同期比
預 金	7,285	7,288	7,181	7,610	428	321
個 人	4,928	4,902	4,902	4,989	87	87
法 人	1,760	1,837	1,789	2,084	294	246
地公体	429	478	445	493	48	14
預かり資産	889	890	814	859	44	▲31
投 信	416	399	306	330	24	▲68
保 険	432	456	475	499	23	43
公共債	40	35	32	29	▲3	▲6
合 計	8,174	8,178	7,996	8,469	472	290

預かり資産 販売額推移

(億円)

	19/上期	19/下期	20/上期	19/下期比	前年同期比
投 信	93	102	62	▲40	▲31
保 険	37	49	57	7	19
公共債	0	0	1	0	1
合 計	131	153	121	▲31	▲10

預かり資産 販売手数料推移

(億円)

	19/上期	19/下期	20/上期	19/下期比	前年同期比
合 計	4.7	5.2	4.8	▲0.4	0.1

● 貸出残高（私募債含む）は、5,863億円。前年同期比+592億円の増加

- ・ 事業性貸出（私募債含む）は新型コロナウイルス対応融資の増加により、同+592億円の増加
私募債は、20年上期に82件（65億円）受託し、同+122億円の増加
- ・ 消費性貸出については、住宅ローン実行の増加により、同+114億円の増加
- ・ 中期経営計画の数値目標にある事業性融資先数5,000先は、20年9月末時点で5,410先に到達

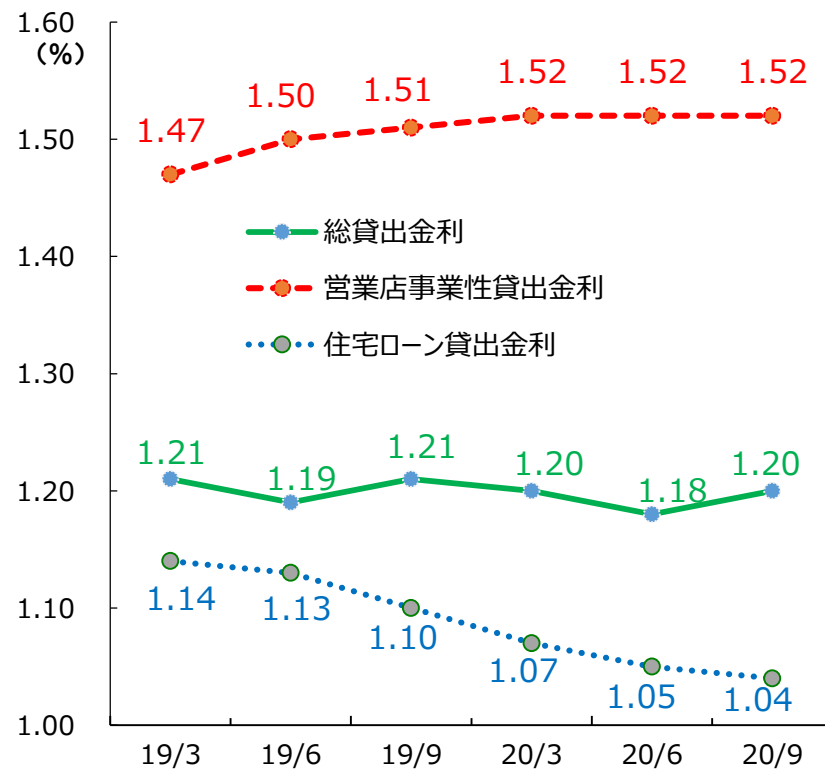
● 貸出平均約定金利は、営業店事業性貸出金利が上昇傾向にあり、総貸出金利は1.20%に回復

貸出 残高推移

(億円)

	19/3	19/9	20/3	20/9	20/3期比	前年同期比
事業性	2,219	2,259	2,561	2,852	290	592
営業店	1,659	1,697	1,742	2,004	262	306
私募債	160	190	255	312	57	122
本 部	399	370	563	534	▲28	163
消費性	1,797	1,853	1,920	1,967	47	114
住宅ローン	1,491	1,551	1,624	1,682	58	131
消費者ローン	286	283	278	269	▲9	▲14
総合口座貸越	18	18	17	15	▲1	▲3
地公体	1,018	1,004	935	888	▲47	▲116
その他	186	153	163	154	▲8	1
合 計	5,220	5,270	5,580	5,863	282	592
平 残	5,120	5,179	5,255	5,692	436	512
事業性融資先数	4,880	5,007	5,117	5,410	293	403

貸出平均約定金利



- 有価証券の残高は1,363億円。前年同期比+72億円の増加
・ 債券、株式の残高は減少したものの、投資信託の残高が増加
- 有価証券の評価損益は+1億円。同+15億円の改善
- 債券のデュレーションは9.7年。同+2.2年の長期化
- 有価証券の運用利回りは1.71%。同+0.56%の上昇

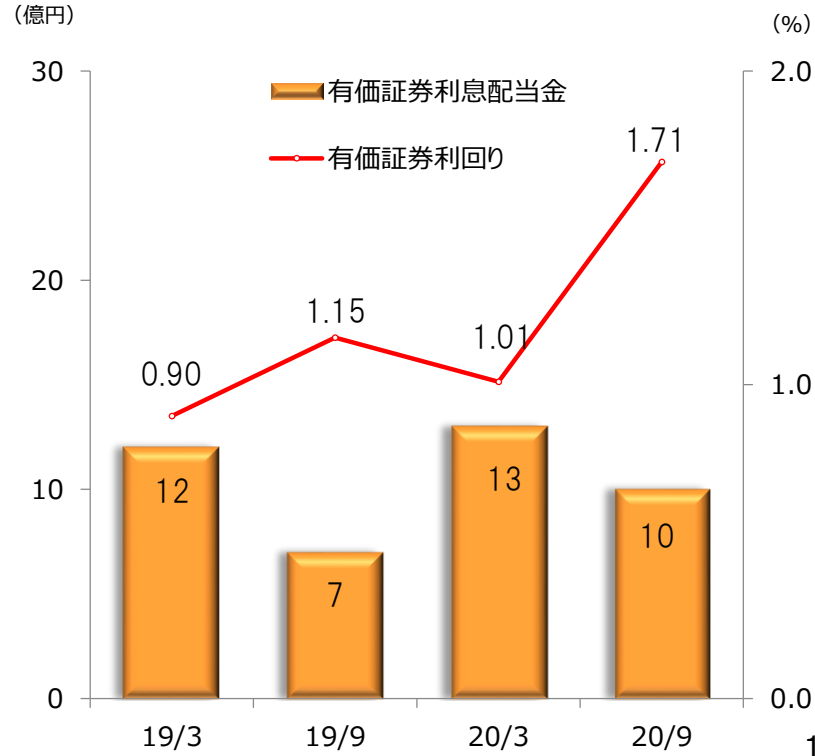
有価証券 残高推移

(億円)

	19/3	19/9	20/3	20/9	20/3期比	前年同期比
債券	689	723	498	654	155	▲69
国内債	634	678	461	617	155	▲61
外国債	55	45	36	36	0	▲8
投資信託	589	514	657	671	14	156
外債型	192	169	439	671	232	502
株式型	212	189	99	—	▲99	▲189
その他	184	155	118	—	▲118	▲155
株式	46	39	33	22	▲10	▲17
その他	47	12	12	14	2	2
合計	1,372	1,290	1,201	1,363	161	72
保有有価証券の 評価損益	▲15	▲13	▲40	1	42	15
債券の デュレーション (年)	5.3	7.5	5.6	9.7	4.0	2.2

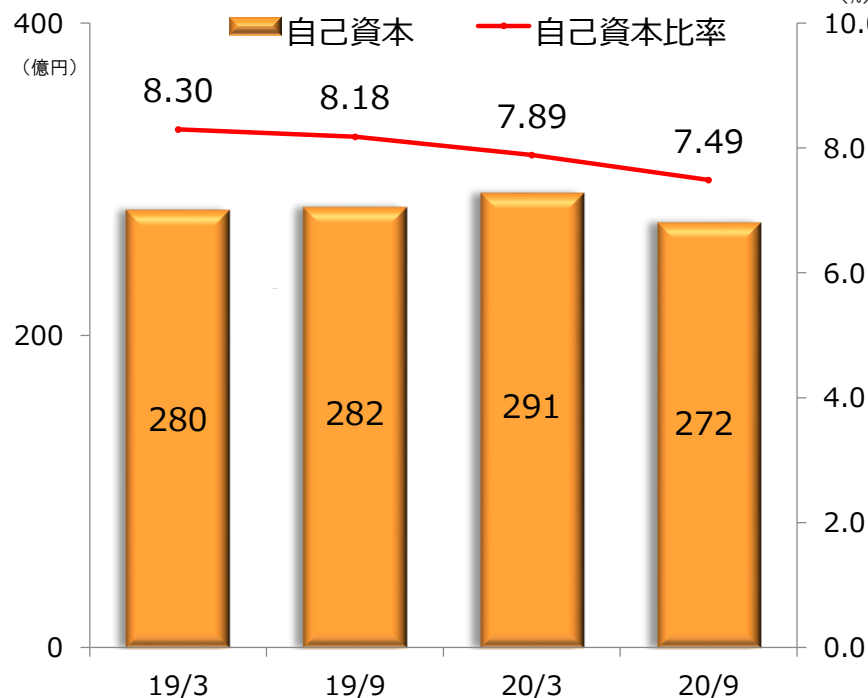
有価証券利息配当金と有価証券利回り

(億円)



- 自己資本比率は、貸出資産の増加および中間純利益の赤字により7.49%（前年同期比▲0.69%）と低下したものの、国内基準（4%以上）を上回る水準を維持。連結自己資本比率は7.92%
- 金融再生法開示債権は、101億円（同+5.3億円増加）
金融再生法開示債権比率は、1.72%（同▲0.10%）と低水準を維持
- 与信関連費用は、コロナ禍による予防的引当の実施により不良債権処理費用が増加し3.7億円（同+5.0億円の増加）

自己資本比率



金融再生法開示債権比率



与信関連費用（▲は戻入）

(※) 一般貸倒引当金繰入額 + 個別貸倒引当金繰入額
+ 貸出金償却等 - 貸倒引当金戻入額

19/3	19/9	20/3	20/9	20/3期比	前年同期比
4.7	▲1.2	0.7	3.7	3.0	5.0

- 2020年度下期は、4億円程度の利益確保を見込んでおり、最終純利益は▲19億円程度を見込んでおります。
- 2020年度（2021年3月期）の配当は、誠に遺憾ではございますが無配とさせていただきます予定です。

2020年度（2021年3月期）決算予想

（億円）

		19/3月期 実績	20/3月期 実績	21/3月期 予想
単 体	経 常 収 益	108	113	109
	経 常 利 益	2	4	▲20
	当 期 純 利 益	3	3	▲19
連 結	経 常 収 益	128	134	130
	経 常 利 益	5	4	▲19
	親 会 社 株 主 に 帰 属 す る 当 期 純 利 益	5	4	▲19

事業活動を通じた地域貢献

● 子育て支援 寄付型ローン ～「ふくぎん子ども絆ローン」～

SDGsの取組みとして、子育て支援等に寄付する「ふくぎん子ども絆ローン」（2018年11月～2019年5月）を開始。大変多くのお客さまにご賛同をいただきSeason 2（2019年5月～2020年1月）、さらにSeason 3（2020年1月～取扱中）と継続し、子育て支援に取り組んでまいります。



2020年5月、Season2の100億円到達に伴い
県内の子育て支援施設にマスク1万枚を寄贈

● SDGs危機管理サポート私募債（2020年4月～）

東日本大震災や令和元年東日本台風被害、さらには新型コロナウイルス感染症の拡大等の危機管理にあたり地域金融機関としてお客さまと共にサポートを図るため県・市町村等自治体に私募債発行手数料の一部を寄付し、危機管理等に役立てていただいております。



私募債受託に伴う寄贈式
車いすを浪江町に寄贈

地域貢献活動の取組み

● 行員ボランティア活動

地域社会の一員として、地域イベントのお手伝いや清掃活動等に幅広く参加し、地域に根差した貢献を行っております。



● 集団献血

集団献血を継続実施しており
30年以上の活動の協力に対し
厚生労働大臣感謝状が授与
されました。



本社所在地	福島県福島市万世町2番5号
電話番号	024-525-2525（代表）
設立年月日	1922（大正11）年11月27日
資本金	186億円
株主数	15,323名
従業員数	669名（うち正社員506名）
店舗数	57店舗（5出張所、2ソリューション°ラザ°、 10°ラザ°、1ネット支店含む）
預金残高	7,610億円
預かり資産	859億円
貸出金残高	5,863億円（私募債含む）
自己資本比率	7.49%（単体）、7.92%（連結）
金融再生法 開示債権比率	1.72%
連結子会社	(株)ふくぎんリース (株)福島カードサービス (株)東北バンキングシステムズ 福活ファンド投資事業有限責任組合

2020年9月末現在

（お問い合わせ先） 株式会社福島銀行 総合企画部 猪股徹也、市川清人 TEL：024(525)2525 FAX：024(536)5338

本資料には、将来の業績および計画等に関する記述が含まれております。こうした記述は、将来の業績に影響を与える不確実な要因によって将来実現する補償はなく、実際の結果と大きく異なる可能性があります。また、事業戦略や業績など、将来の見通しに関する事項には、一定のリスクや不確実性等が含まれております。